



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校
学校だより 7月号
平成28年6月30日発行
発行責任者：野田 豊

相撲教室

副校長 相原 和子

旭丘小学校の特色ある取組の一つとして「相撲(すもう)教室」があります。毎年3年生が体験をしているこの教室は、地域の相友会の方の協力をいただき実施しています。今年度も3年生が相撲の体験をしました。

3年生はまず体操服の上に晒のまわしを着け、蹲踞(そんきょ)や構えの姿勢を教わりました。まわしを着けるだけで、子供たちはやる気が出てきたようです。足を上げ四股を踏む様子を見ると、だんだんと足が高く上がって勢いもついていきました。その後二人一組になり向かい合って練習をしました。礼をし、はっけよい!とかかかっていく練習、すり足の練習などをして、実際にマットの上に作られた土俵に上がり取り組みをしました。その後、対戦表に沿って試合を行い、活動のまとめをしました。

本校では、オリンピック・パラリンピック教育を進めています。全教育活動を通して、オリンピックの精神や歴史を学ぶとともに、一流スポーツ選手や外国人との交流活動を行い、ボラティア精神、障害理解、スポーツ志向、日本人としての誇りと自覚、豊かな国際感覚をはぐくむ活動を進めています。また日本にはたくさんの伝統や文化があります。そうした伝統や文化から日本の良さを学ぶ学習も行っています。相撲もその中の一つです。3年生が行うこの「相撲教室」は、日本に古くから伝わる相撲を体験することを通して、日本の伝統や日本の良さを感じるねらいがあります。そして日本に伝わる相撲の体験から、児童が学んだ日本の良さを発信できるように指導を進めています。

今回の活動で、相友会の方から「相撲では、礼をすることがとても大切」と教えていただきました。相撲に限らず、日本では「礼」を重んじる場面が多くあります。「礼」をすることは、相手に対して敬意を払うこと、相手も自分と同じように大切にすることを表すこと、試合では正々堂々と戦う意思を表すことです。3年生のこの活動を見ていたら、勝負が着いて組みが終わるたびに、子供たちから自然と拍手がおこりました。これは対戦した友達に対して「がんばったね」「いい取り組みだったよ」「一緒にやってくれてありがとう」などという気持ちを表していると思います。子供たちの相手に対する思い、気持ちが行動となっているのです。ちなみに、感謝といえば、この教室を実施するに当たり、土俵となるマットの準備をしてくれたのは、上級生の6年生でした。旭丘の子供たちは、みんなで協力しあっていることを感じました。3年生は6年生にも感謝の言葉を伝えていました。

今回の「相撲教室」は今年度から本校に配置された地域連携クリエイターの方が担任とともに事前に打合せを行い実施しました。今後も、日本の伝統・行事等の中から体験したり学んだりして、日本人としての誇りを持たせ、そしてさらに国際感覚豊かな児童の育成に努めていきたいと思っています。

